

資料

(*印の付いている語句は、資料の最後に「注」がある。)

【文章一】(池田晶子『14歳からの哲学―考えるための教科書―』所収
「考える」[2]より部分)

「個人の自由でいろんな意見があつていい」という、この意見自体は、正しいだろうか、間違っているだろうか。

君はこれまで、自分の意見を主張できるように言わされたり言われてきたはずだ。自分の思ったことを、しっかり人に伝えるようになりなさい、それが自由ということだ、とね。

でも、ここでちょっと立ち止まってみよう。自分の思ったことを人に言うということは、自分の思ったことを人に言うことで、いいのだろうか。

たとえば、*さっきの議論の場合、それぞれの人が、それぞれ自分の思ったことを人に言った。どちらも自分の思っていることが正しいと思っ
ているからだ。人は、自分の思っていることが間違っているとわかってい
るから、それを人に言うということはしないものだ。なぜだと思っ
や当たり前さ。間違っていると自分でわかっていることを、どうしてわざ
わざ人に主張したりするものだろう。そんなことをしたら、あの人は間違
ったことを正しいと主張してよって、笑われるとわかっているから、人
は、自分が正しいと思っ

でも、だとすると、①自分では正しいと思っ
違っているという場合は、どうしたものだろう。自分では絶対に正しいと
思っているんだけど、本当はまったく間違っ
ずに、大きな声でそれを主張しているとしたら、これはすごく恥ずかしい
ことなんじゃないだろうか。こういう恥ずかしい思いをすることが、自由
ということなんだろうか。もしそうなら、自由にもなんか言わない方が
いい、自分の思ったことなどに言わない方がいいのだろうか。

でも、そんなことをしていたら、自分の思っ
のか間違っているのか、いつまでも知ることはできないね。だって、自分
で思っ
すると、自分の思っ
には、君はどうすればいいのだろう。

もうわかっているよね。そうだ、考えるんだ。自分が思っ
ただ自分がそう思っ
かを知るためには、考えるということをしな
「しな
け
いのなら、ということだ。知りたくないのなら、べつに考えなくたってか
まわ
ど君の自由だからだ。誰も君の代わりに君を生きること
らね。

(以下・略)

【文章二】(柳川範之『東大教授が教える 知的に考える練習』)

多くの人が大量の情報を見て、世間で評価されているものを探すとい
やり方をしているのも、*こうした発想を多くの人がしているからで、無意
識に「みんながいいと言っ
いでしよう。

自分がどう思うかよりも、ほかの人がどう思っ
れからの社会を考えたときに、この点は大きな問題だと思っ
ある問題に慣れきつてしまっ
傾向があります。

しかしながら、世の中の問題で、正解があるものなんて実はほとんどど
こにもありません。正解を探そうとすると、むしろ考えることにはつな
がないのです。

そもそも、私たちは「正解」を探すために考えるわけではありません。
何か問題があつて、それがうまく解決することを目的にして考
です。それは生活の問題かもしれませ
例えば、恋人にどんなプレゼントをしたら喜んでもらえるかを考
ともあるでしょうし、*起業するにはどうすればうまくいくかを考
ともあるでしょう。そして、うまくいかせるためには、さまざまな判断や
決断をしていくことになりま

どちらにも共通しているのは、考えることによっ
導き出すということです。きちんと考えられれば、自分の中で自信を
持つて選んだり、決めたりできるようになります。結果、ものごとがま
くいくというわけ
そういう広い意味での「解」を導き出すために考
②それはあくまで「解」であり、「正解」ではないのです。

本来「考える」ことは学校の勉強の中で身につけるものでした。勉強と
は、何か現状の問題に対しての解決策や改善策を考え出すことが目的だっ
たのです。

【注】

さっきの議論 … 筆者はこの部分の前の段階で、「生きているということは素晴らしい」派の人たちと、「生きていることはつまらない」派の人たち
とが、互いに分かれて議論したと仮定している。

こうした発想 … 筆者はこの部分の前の段階で、日本人はお手本通りにするという「正しさの基準」に縛られていると述べている。

起業 … 新しく事業を始めること。